

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	特養併設施設という事もあり、共有空間が広く、家庭観を感じられるような演出が不足している。物品が少しづつ増えているが、継続して取り組む必要がある。	利用者に家庭的な雰囲気の空間の中での生活を提供し、居心地の良い居場所づくりを行う。	ソファや本棚などの購入や観葉植物などを飾り、物に囲まれた普通の生活を作り出す。	12ヶ月
2	37	入居者の重度化が進み、意思疎通や自己決定が困難なケースが増えている。それに伴い、介護力の向上が課題である。	重度化しても安心して生活できる介護力を身に付けるとともに、医療機関との連携を密に図り、日常生活動作の向上に努めていく。	施設内研修や外部機関研修への参加を積極的に行い、職員の知識と技術の向上を図り、入居者の状態に合わせた、適切な支援が行えるようになる。主治医との連携を密にすることで、入居者に安心感のある生活を維持出来るように努める。	12ヶ月
3	7	身体拘束を行わないケア(身体的な行動制限や過剰な服薬による行動制限、また言葉による行動制限など)が出来てるか、見直す機会を設ける。	認知症の行動心理症状(BPSD)に及ぼす影響の知識を深め、身体拘束を行わないケアの実践を継続する。	身体拘束の弊害、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を、職員間で再確認し、事業所で行われる勉強会や研修において、身体拘束を行わないケアの実践に努める。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。